北海道医歌人会詠草

親族　札幌　古屋　統

十人の兄姉すべて逝きたれば末子が親族の長老とされ
長き日々長老の責負いし兄八十九歳忽然と逝く
身の廻り年嵩なるは癌を摘り声失いしあによめ一人
弟は肝癌に逝き兄はいま肺癌再燃か長姉(オオアネ)の子ら
発声器のみどに当つる嫂ようからはらから励まし給え

イチロー万歳　美唄　吉村　誠治

アメリカに日本野球を顕はしてイチロー万歳二百五十七安打
シスラーの逝きにし年に生まれしは因縁なりぬ鈴木イチロー
二百六十二本目打ちしバットがアメリカの野球殿堂に飾られるなり
メヂャーにて日本野球の名を挙げるイチローに続け野球少年
イチローよ今日も記録を塗り変へよテレビに向ふ我の嬉しき

飛翔　札幌　山口　康徳

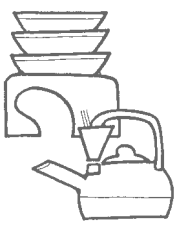
そのむかし中空高く飛びし鶏(とり)いま羽根退化し肢(はし)もて奔る
人類のIQ(アイキュウ)越えし天災に打克たむとて橋復旧す
人類も四肢を使へよさもなくば鶏(とり)をみるがに退化瞭然
進歩せる技術の粋は輝けり新幹線の被害軽微ぞ
激論し二分されたる超大国神の手となり世界導け

アナクロニズム　帯広　中野　知弘

許されしカンニングにて友情と法のこころを語りし教授
わかってる、云はれ加ふるものもなし断絶ならぬいく年へたる
君なくて暮のつどひは侘しかり少しく挙ぐる琥珀の坏(つき)を
ゆくりなくもこの土の上に住みたりき四条九丁目逃ぐるにしかず
すぎゆきは男の道の涯ならむ　今ひとつ越す朝のあけぼの

河骨の花　札幌　魚住あらた

海や山いまをし眠る光ありほろほろあるは何をか告げむ
海や山なかに眠れるものはつくづくたりき河骨の花
事ことにつくづくたりきけふの花庭石の花亡き人想ふ
一脈のなきこころうちつと想ふつくづくたりきにはなしの花
花は終へみどりをしゐましつと想ふ逝きたる想ひ河骨の花



戦後六十年　札幌　小国　孝徳

マラリアにうつしみ黄色くなり果てて還り来しより六十年か
花とも葉ともPenisに似るとパラオに見しウツボカズラを六十年経て知る
背を伸ばし軍刀下げて歩みたる軍医大尉と人知らざらむ
近衛師団の徽章のつける煙草ケースはかなきものも抽出しにあり
「熱情」を弾けるピアニストの指の動き妻と見てゐる斯かる平安